

第 55 回東京消化器内視鏡看護勉強会レポート

テーマ：「内視鏡室の感染対策」

開催日：2022 年 10 月 15 日 14:00~16:00

会場：五反田文化会館

出席者：22 名



日本消化器内視鏡技師会 安全管理委員会理事の佐藤絹子先生を迎え「あなたの内視鏡室は大丈夫？」というタイトルで講演をしていただきました。

感染対策の基本から、感染事例とその原因、内視鏡と処置具のリプロセスのポイント、消毒機の取り扱いに関する留意点など、感染対策について事例をいれながら説明してくださいました。

その一部を紹介いたします。

- ・感染対策の基本である
WHO の推奨する手指衛生の 5 つのタイミングについて
PPE の着脱手順について
COVID-19 の感染拡大が起こり PPE の見直しを行い強化をした
- ・内視鏡検査に関連した感染報告の事例の一部を紹介
アメリカでのカルパペネム耐性腸内細菌（CRE）十二指腸鏡感染報告
送気送水管路の未消毒が原因の HBV の感染事例
内視鏡検査後、H.Pylori 感染による AGML などがありました。
- ・各施設で行っていただきたい事として
ガイドラインを参考に自施設でのマニュアルの作成
軟性内視鏡の洗浄度評価指数として ATP の測定の推奨
年 1 回は無作為に抽出した内視鏡機器の一般細菌の細菌培養の推奨（日本消化器内視鏡技師会から、内視鏡定期培養プロトコールが発行されています）
- ・内視鏡室内の環境として、洗浄室の強制換気などにも注意が必要
- ・内視鏡のリプロセスの 3 つのポイントは、はじめに洗浄、次に消毒、最後に乾燥が重要
- ・洗浄のブラシは、ディスポブラシが推奨されており、海外のガイドラインでは浸漬洗浄の指示が出されています。
- ・洗浄・消毒の履歴管理の推奨
- ・洗浄スタッフの定期的な教育と監査が重要（監査に関しては、日本消化器内視鏡技師会安全管理委員会が発信している「内視鏡室の感染対策に関する自己調査」などを活用することも有効です）

スコープの洗浄・消毒は日々変化しています。今回のような勉強会の機会を利用し、明日からの業務に役立てて頂けると幸いです。

最後に「最終的に感染予防を可能にするのは医療安全に対する個人と組織の誠実さである—坂本 史衣—」という言葉が印象に残りました。

（文責 高村）